東三河農林水産事務所田原農業改良普及課 TEL0531･22･0381

花き

鉢物に発生するアザミウマと赤色LEDによる防除について

春山　純平

夏から秋にかけて、鉢物ではアザミウマ類の被害が数多く報告されます。今回は鉢物に発生するアザミウマの主な種類とその被害、さらに近年注目されている赤色LEDによる防除技術を紹介します。

●アザミウマの種類

・ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ

アジサイやシクラメンなど多くの品目を加害します。花を好み、花粉を食べると産卵数が増加します。また、後述するウイルス病を媒介する能力が高いことも大きな問題となっています。

・クロゲハナアザミウマ

近年被害報告が急増しているアザミウマで、キク科を中心に加害することが知られています。加害部位は下位葉～上位葉、花までと幅広いのが特徴です。寒さ・暑さに強いため発生期間が長く、薬剤抵抗性の発達も報告されています（写真１）。

その他にも、ミナミキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、クロトンアザミウマなどの種が鉢物を加害します。

●アザミウマ類の被害

・食害

口針で植物表面を傷つけながら吸汁することで、葉や花弁にかすり状の白色斑点や褐変が生じ、葉の変形（ひきつれ）を引き起こします。葉への被害はハダニによる食害と間違えやすいものもありますが、食害痕に黒い点々（排泄物）が混じること、光沢を生じることがアザミウマ被害の特徴です。また、花にも傷や奇形が発生し、商品価値の低下につながります（写真２）。

アジサイでは、秋に発生したアザミウマが冬芽の内側で越冬し、翌年に施設内に苗とともに持ち込まれ、新芽や展開直後の軟らかい新葉を吸汁し被害が拡大します。そのため、発生初期の秋に農薬散布による予防的防除を徹底することがポイントです。

・ウイルス害

ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、ウイルス病を媒介することが知られています。シクラメンではインパチェンスえそ斑紋ウイルス（INSV）によるえそ斑紋病が問題となり、葉に輪紋、えそ斑点、モザイク、黄化などの症状を引き起こします（写真３）。ウイルスに感染した植物では、葉の黄化やえそ症状、株全体の生育不良などが発生し、一度感染すると治療は困難であるためアザミウマの密度を低く維持することが大切です。



▲写真１



▲写真２



▲写真３

●赤色LED灯によるアザミウマ防除技術

従来の防除は薬剤散布が中心でしたが、近年は薬剤抵抗性の発達や省力化の観点から、物理的防除技術への関心が高まっています。その一つが赤色LEDを活用した防除です（写真４）。

赤色LEDによる防除は、アザミウマの行動特性を利用した技術です。施設内で赤色光を日の出前から日没後まで照射することで、アザミウマの活動や植物への定着を抑制できることが報告されています。

ただし、殺虫効果はないため赤色LEDのみでアザミウマを完全に防除することは難しく、発生状況の確認や適切な薬剤防除、施設内外の衛生管理などと組み合わせた総合防除（IPM）の一環として活用することが重要です。

また、赤色光が花芽形成に影響する植物に照射する場合は照射の時間帯に留意が必要です。



▲写真４

アザミウマ類は小型で発見が難しく、被害が拡大してから対策を講じるケースも少なくありません。日頃から青色や黄色の粘着トラップによる発生状況のモニタリングを行い、早期発見・防除に努めることが重要です。さらに、赤色LEDや防虫ネットのような物理的防除を上手に活用することで、高品質生産や安定出荷につなげていきましょう。